

来

週には、二学期が終わり、その翌週には、二〇二〇年が終わる。夏休みは、行事や研修がほとんど無秩序と言っているほど入り込んでくるので、休みとは言え暑さも手伝ってそれほど開放された気分にならないが、冬休み前は静かに閉じていく感じがうれしい。学校で教わっていたときも、教えるようになってからもそれは変わらない。

担任教師たちは、学期末のあれこれに気ぜわしい。授業の合間に成績を付け、面談の準備をし、アクシデントで狂った予定の調整に走る。でも、それも区切りを迎えるための通過点のようなもの、師走の風物詩だ。

「この状況で、甘いんじゃないの。子どもが感染したらどうすんの。責任取るの？」

朝からクレームの電話。自分のイライラをだれかのせいにならないと気が済まないらしい。「ほほう、あなたご自分が感染されたら責任取られるのですか」などと返してやりたいところだが、退屈で不毛なやりとりは一刻も早く切り上げたい。適当な出口を探して電話を切る。これも日常の一コマに過ぎないのだが、受話器を通して侵入してきた声は、毒素を放ってしばらくまとわりつく。そばにいる職員には不愉快に付き合わせる事になり申し訳ないのだが、話して解毒に努め

る。

カウンタダウンアプリを入れて、退職日を入力してみたのが夏。ここまで来るとアプリに頼らずとも暗算で浮かぶ。そんなものは意識したくないのだが、勝手に浮かんでくるのだから仕方ない。こんなクレームに付き合うのもあと〇〇日か、という具合だ。

途中の大きめのアクセントだったはずの最後のボーナスも通過してしまった。もつとうれしかったり寂しかったりするのかと思っていたが、それほどの感懐もおぼえぬまま過ぎた。これまで何百回と給料やボーナスを受け取っているというに、記憶を追ってみると、一気に初めての給料にたどり着く。修学旅行から帰ってバスから降りたときに事務さんから受け取った現金入りの給料袋、いつが給料日かさえ知らなかったからびっくりした。表に貼られた明細を見て、「こんなにもらえるのか」と感動した。アルバイトとの比較はできないのだから高額に見えたのである。ほかの記憶はないものかと今一度さらってみるが一切なし。罰当たりなことである。

結局、最も心動くのは最初だけなのであって、最後なんて慣れきったなれの果て。あと百日足らず、果てを拾い続けるつてことか。これは、四月、何としても最初を経験せねば。

夕焼け通信1289号 2020.12.21

〒690-0823 島根県松江市西川津町4276-B402
miyaken@me.com gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/
編集 宮森健次



専業ババ奮闘記 (その2) 35

木幡智恵美

出産 (2)

娘が居る産院は、まだ開いておらず、インターフォンで看護師にお願いして開けてもらう。寛大と実歩を連れて分娩室に入った途端、実歩の顔が引きつった。いつも抱きしめてくれる母親が苦しんでいる顔を見て、平気でいられる筈はない。寛大の方は、母親に近づき、手を握って「おかあさん、がんばって」と声を掛けた。「ありがとう。実歩もこっちおいで」と娘は実歩に声を掛けるが、凍り付いた表情のまま固まっている。この様子では出産に立ち会うどころではない。「寛大、実歩、お母さん頑張って赤ちゃんを産むから、保育所に行こう」と二人を早々に連れ出し、車に乗せた。「お迎えの時に、お母さんに会いに行くからね。その時は、赤ちゃんにも会えるからね」と言うと、寛大は「男の子がいいな」。実歩もようやくいつもの表情を取り戻し、「みほちゃんは、おんなのこがいい」と声を発した。

病院に引き返してそう経たない午前八時四十七分、実歩の時と同じようにすんなりと赤ん坊が出てきた。娘の腹の上に乗せられるなり、赤ん坊は大きな声で泣き出した。元気のいい男の子だ。寛大の時から出産に立ち会うよう娘に頼まれ、「三人目は忠ちゃんだけでいいがね。私はもう遠慮しとく」と言ったのに、仕事を休めない忠ちゃんの代わりで、結局は三度とも立ち会う羽目になった。とにかく、無事生まれて何よりだ。

と、安心したのも束の間、これからのことが頭の上のしかかる。まずは、寛大と実歩が当分我が家で過ごすことになる。娘と赤ん坊の荷物も含め、寛大と実歩の保育所用、家で過ごす用、それぞれに分けた衣類その他を取り、娘の家に向かった。車の中一杯になった荷物を居間に運び入れ、すぐに義母の部屋に顔を出す。夫があれこれしてくれたようで、寝巻のまま炬燵にはまっていた。「いたい」を連発する中、何とか背中中のシップを張り替えながら、無事に赤ん坊が生まれたことを報告する。「男ん子かね」と目を細めて聞いていた。

あとは、荷物の整理と、私の居場所づくりだ。

30代フリーター やあ、ジイさん。国会で野党の質問にたびたびキレた安倍晋三。NHKのニュース番組で日本学術会議の任命拒否問題の説明責任について聞かれ「説明できることとできないことがある」と怒気をあらわにした菅義偉。ふたりの総理大臣の振る舞い方を見てみると、日本社会全体が子供っぽくなっているのではないかと思えてくる。

年金生活者 私はあと1年と2か月余りで後期高齢者と呼ばれる年齢になるのに、未だに大人にはほど遠い自分を感ずる。もつとも、幼いということは成長の余地があるということだから、そのぶん長生きするかもしれないと妄想しているが。

30代 大人になるとはどういうことだろう。

年金 吉本隆明は亡くなる前年の87歳のときの雑誌のインタビューで自分のことを「確固たるひとりの完成された人格、大人になっていないなと実感してしまう」と語っている（「BIG

とつの対象に即座に反応するのを控え、別の対象に接近したり、別の対象が出現するのを待たたりしなければならぬ。前者を俯瞰的なとらえ方と呼ぶなら、後者は迂回的なとらえ方と言うことができる。俯瞰的なとらえ方では時間化すれば迂回的なとらえ方になり、迂回的なとらえ方を空間化すれば俯瞰的なそれになる。

吉本の言う「公にどんなことがある」と、自分や自分の近辺の人に役立つと思えることをやる」のは反射や真似ではできない。想定される複数の役立ち方を比べ、吟味し、場合によっては事態の変化を待つ必要も出てくる。それは俯瞰的、迂回的な構えなしにはできない。

30代 子供っぽい人間が増えたとするば、その原因はどこにあるんだろう。

年金 食べ物の乏しかった時代は、自分が食べるのを我慢して我が子に食べさせることが大人の要件のひとつとされた。モノが豊かになった現在、それに代わる大人の要件は、自分の自尊心

tomorrow」2011年8月号)。その

とき彼が大人の要件のひとつにあげたのが「自分で考えること」だ。

30代 彼ほど「自分で考えること」をしてきた日本人はいないと思っていたのに、本人は「大人になっていない」と言うのか。

年金 「自分で考えること」は、どんな日本の知識人にも負けないほどしてきたつもりだけれど、どんな日本人にも負けないほどはしていない。「自分で考えること」は知識を相手にする作業に限ってしてきたに過ぎず、生活の領域においてはとうてい日本の大衆には及ばない……。吉本はそう言っているように聞こえる。

彼は次のようにも語っていた。「公にどんなことがある」と、自分や自分の近辺の人に役立つと思えることをやる。大人とは、信念を持ってそれができる人なのかもしれません。洗い物でも掃除でも「自分や自分の近辺の人に」負担をかけず「役立つ」ようにするにはどうしたらいいかを絶えず「自

を満たすのを我慢して、我が子の自尊心を満たしてやることではないか。腹を満たすことではなく、自尊心を満たすことが、現在を生きる人びとにとって切実な欲求になっていると思えるからだ。

私たちの国では前世紀の終わりごろ、選択的消費が必需的消費を上回り、国民が選択的消費を一斉に控えれば、政権を倒すこともできる、と吉本隆明は指摘した。それは国家の権力の

分で考え」、実行できるのが大人なのだ。そう言っていると受け取れる。

30代 自分で考えるにはどう心を働かせたらいいんだ。

年金 反射的に行動するのが乳幼児の段階なら、次の段階では他人の真似をするようになる。そのいずれも脱したときようやく自分で考えるようになる。

反射では、五感がじかに受け取ったひとつの対象としか心は接触しない。別の対象、対象の周辺、背景、由来をとらえることはない。真似は反射と違って、とらえた対象に即座に反応することではないが、やはりひとつの対象に囚われてしまうことだ。真似るとは、対象をとらえるだけでなく、対象にとらえられること、言ってみれば夢中になることだ。

考えることが反射や真似と違うところは、ひとつの対象ではなく、いくつもの対象をとらえることにある。複数の対象をとらえるには、それぞれの対象に距離を置く必要がある。また、ひ

一部が個人に分散したことを意味する。分散した権力を手にした諸個人はそれに相応する処遇を求めるようになった。つまり自尊心を満たすことへの欲求を強めた。

自尊心は他者より優位に立つことによつて満たされる。自分の自尊心の満足は他者の自尊心の不満足をとまなう。食べる物が限られているとき、自分の腹を満たすことが相手に空腹を強いることになるのと同様だ。

いま人びとは、まるで乏しい食べ物を奪い合うように自尊心を奪い合っているように見える。「マウントを取る」「マウンティング」といった言葉が広まっているのは、自分の優位性を示す行為が日常茶飯事のようになされていることの証左と言っている。

かつて大人の要件とされた食欲のコントロールは、人びとの間で広く共有された倫理だった。しかし、現在の大人の要件かもしれない自尊心のコントロールは、そうした倫理にはまだなり得ていない。

ニュース日記 767
中村 礼治

大人はなにができるか